

押した「レフチェンコ証言」登場人物の「アリバイ工作」



「日本で民主主義に目覚めた」というレフチェンコ元少佐

それにしても奇妙な「社説」である。

レフチェンコ証言のいうように日本の政界や言論界にKGBの報酬を受けとる工作員が配置され、ソ連の情報操作に利用されているとすれば、ことは重大で、真相の解明がされなければならない。

当り前の話である。問題はこれに続けて、

「だが、単に一亡命者の発言をもとに、特定の個人や団体の背景を疑ったり、公表されぬ名前をせんさくしたりすることは慎まねばならない」

と、レフチェンコ証言の真相究明はしてはいけないと朝日の社説は主張しているのだ。

そして、いま必要なのは証言の真相究明ではなくて、

「われわれに必要なのは、「釣り合いの感覚」をもって冷静に証言を分析し、その背景を考えてみるかどうか」

と、巧みに焦点をズラした上で、まだ日本はスパイ慣れして

いない国だとか、そう

いえばロッキード事件の発端も上院の多国籍企業小委員会でのコーチャン証言だったか、これは、

「外国への迷惑や影響などおかまいなく、議会で重大証言を無造作に公開してしまうのが米国流なのだ」

と八つ当たりをする始末。まるでコーチャン

証言も迷惑だったといわんばかり。当時の単独インタビューのはしぎぶりは他人事のような顔つきなのだ。

つまり、

「ことは重大で、真相の解明がされなければならない」

というのはオタメゴカシで、

KGBの日本人協力者はいったい誰なのか、レフチェンコの証言が正しいのかどうかを解明して、読者の「知る権利」に答えることはやめにしておいて、

「こんどの事件で、事実関係を

日本には、ソ連のKGB（国家保安委員会）のエージェントスパイが二百人以上もいるという。先に亡命したKGB少佐のレフチェンコの証言によると、KGBに協力する日本人は、自民党の閣僚経験者を含む複数の国会議員、社会党幹部、著名ジャーナリスト、中国研究者など……。具体名は近く刊行される著書の中で公表するとい

フレンチサラダ

新発売!

カルビー
ポテトチップス



十分吟味もしないまま人を色眼鏡で見る風潮や、機密保護立法などの動きが活発になるとすれば、その方に警戒心を向けねばならない」

と、社説を結んだのだ。

記事も奇妙なものがあつた。米下院情報特別委員会が、KGBの謀略工作の一例として提出したKGB作成のニセ「CIA協力者リスト」を、わざわざ「有名記者ならみなスパイ?」の見出しで紹介。もともと、デッチ上げ、インチキなこの「CIA協

特集1

CIAも太鼓判

「レフチェン」の「ア



上左から田中六助、猪木正道、石田博英、赤城宗徳、
下左から阿部文男、中嶋嶺雄、勝間田清一、横山利秋の各氏

KG Bのインテリ減、情報力を疑わせるように印象づける記事に出来上っている。このレフチェン証言報道の朝日の際立った特徴といえる。

あらためて朝日の編集幹部にこの点をたどしてみたら、返ってくる言葉は「社説」と似たりよったりのものだった。

ある外交評論家は今回の朝日のレフチェン報道の姿勢についてこういう。

「朝日は、全体をコックイなことにして押揃しようとしてま

う。で、かねてから「ソ連寄り」と見られていた関係者の中には「アリバイ工作」を開始するものも。一番疑われている朝日新聞などは、さっそく「『スパイ』に惑わされるな」と社説を掲げたが……。

力者」のリストを、あらためて「噴飯もの」だとか、「荒唐無稽」といった上で、だから、へそれだけに、KG Bのいう「エージェンツ」の信ぴょう性が、きわめて薄い資料になっている」と分析して見せた。つまり、

すが、レフチェンコの本が出されてすべてが白日にさらされたら、大変な騒ぎになるでしょう。朝日のモスクワ特派員は、一人を除いてみんな女でダメになったと聞いていますからね。朝日の社内でも話したことが、全部ソ連大使館に筒抜けになって

東欧記者も驚く親ソ記事

ロシア文学者の木村浩さんは今回のレフチェンコ証言をこう受け止めている。

「別に驚きませんでしたよ。この話が出る前に、それらしい名前はいろいろといわれてましたでしょう。朝日なんかは、もともとあの国の線に沿った記事を書いたりしてた訳だけど、最近には目に余るものがありますからねえ」

証言によると、四人の著名なジャーナリストのエージェンツの一人は、サンケイの山根卓二編集局長。KG B作成のニセ「周恩来遺書」をレフチェンコが

困るといった人がいました」何だか朝日全体がKG Bのエージェンツであるかのような話になってくるが、ことほど左様に、朝日のソ連報道は今回のレフチェンコ証言も含めて、疑念を抱かせるものが多いということなのだろう。

山根さんに持ち込み、記事にさせることに成功したという。もっとも、その記事はKG Bが意図したものとは逆の形になって記事化されていて、山根さん、

牛肉みそ漬
すきやき佃煮
そばろ佃煮

●都内各デパート名店街でどうぞ

浅草今半

東京都台東区浅草三丁目三番
電話 八四一三三・五五五

新時代誌

東京文芸家

スタニスラフ・レフチェンコ

東京都渋谷区千代田2-1
渋谷ホームズ205
TEL 03 (476) 5340"NEW TIMES"
INTERNATIONAL WEEKLY

TOKYO CORRESPONDENT

STANISLAV A. LEVTCHEENKO

TOKYO, SHIBUYA-KU,
UDAGAWA-CHO, 2-1
SHIBUYA HOMES, 205
TEL 1031 476-5340

この名刺でどこでもフリーパスだった

結果は、そのサンケイの記事をソ連のタス通信が取り上げ、世界中に流したのだから……。つまり、初めからそういう段取りの「謀略」だったといえなくは

ない。ところで、実際、KGBは金離れがいいのだそう。某新聞社の政治部デスクの東京での体験。「六本木に彼らの行きつけのバーがあって、ワリカンにしようと思っただけでも、彼らの行きつけの店です。それからその場では払わないでバーッと外へ出る。そういう形で借りができて、深みにはまって行くんです。帰りのタクシー代といってポケットにボンと現金を入れたくれる。家に帰ってみると大金が……。ということになるんです。連中には、領収証はいりませんからね」

あるいは、『今日のソ連邦』などに原稿を書かせて、『先日はすばらしかったが、もう一本お願いします』

というの、彼には今年二十歳になるロシア人の娘さんがモスクワにいるといわれるほど、かつて親しくしていたソビエト女性がいたのだそう。元モスクワ特派員だった某氏はこう断言する。

「彼に女性問題があったことはまちがいないことです。女の関係はソ連当局に全部握られていたようです。彼の前任者もソ連女性と深い仲になって、KGBに呼び出されて絞られ、協力を誓わされたらしい」

何しろ、日本人のモスクワ特派員で、ソ連女性からアタックされない男性はいないというほどで、しかもその女性の動向はすべてKGBに筒抜けというのが実情なのだ。が、わかっている、つい誘いにのってしまふのだという。で、ある時、

「自衛」のために奥さん同伴のモスクワ特派を外務省に相談したところ、奥さんの人数分、ソ

「私がKGBのエージェントだなんてとんでもない。自分でもうのも変ですが、日本人記者は、KGBが工作しようとしても、それをオウム返しに書くほどバカじゃないということです」と、この点のレフチェンコの誇大証言ぶりにはあきれる。

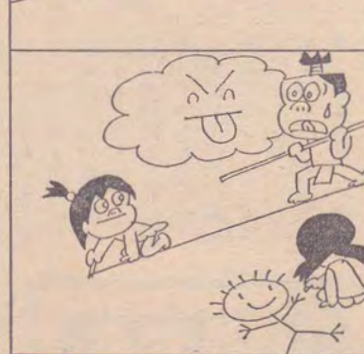
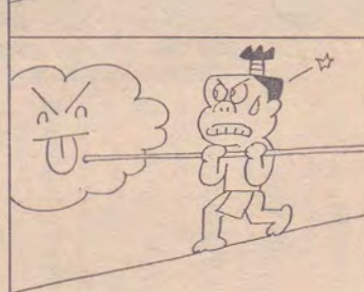
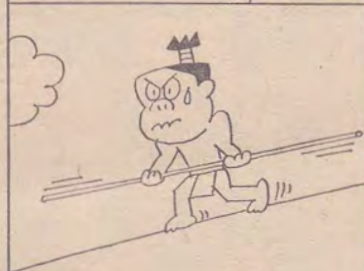
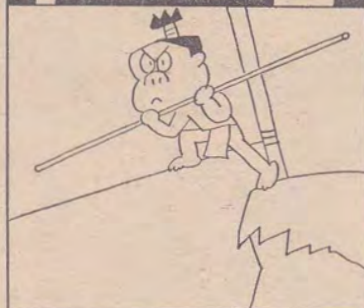
山根さんの場合、在京ソ連ジャーナリストと会う場合は、上司に報告する、場所は新聞社内か周辺で時刻は昼間、お茶一杯たりとも借りを作らない、国益に反する情報はもらさないの四つの原則を守ってきたという。しかし、レフチェンコは山根さんがそういう扱いにすることに

「六本木に彼らの行きつけのバーがあって、ワリカンにしようと思っただけでも、彼らの行きつけの店です。それからその場では払わないでバーッと外へ出る。そういう形で借りができて、深みにはまって行くんです。帰りのタクシー代といってポケットにボンと現金を入れたくれる。家に帰ってみると大金が……。ということになるんです。連中には、領収証はいりませんからね」

問題、モスクワ特派員の都合だ。で、先に紹介した外交評論家の話に戻るのだが、朝日の元モスクワ特派員の中でも極めつきの親ソ派といわれてきたのが元編集最高幹部氏。今回も、「四人の著名ジャーナリスト」の一人はその人ではないかと、もっぱら関係者の間でいわれているのだ。

ど、かつて親しくしていたソビエト女性がいたのだそう。元モスクワ特派員だった某氏はこう断言する。

ポコリンコ



●安心がブーンと大きく

自家用自動車総合保険

●ワイドな補償の

積立ファミリー交通傷害保険

安心づくりのお役に立ちます。

日新火災

〒100 東京都千代田区大手町1-5-1

TEL (03)211-1311(大代表)

連ジャーナリストの東京特派員を増やすことになるので、その分ソ連の対日工作員が入り込んでくることになるのでその案は困る、と断わられたというイキサツもあるほど。

今年二月、朝日はその元最高幹部氏を団長とした訪ソ団がモ

スクワに行き、全六回の連載にまとめた。朝日は二年前にも「ソ連は脅威か」というテーマの連載をやったが、今回の記事は、他紙の元モスクワ特派員からいわせると、

「ひょっとすると、取引があつて、朝日の渡辺社長とブレジネ

「五十万円の端金とは情ない」

レフチェンコが『新時代社』

の記者を名乗っていた関係上、

「二百人の協力者」の中にはジャーナリストがかなり入っているとされるが、その他の政治家や学者とは誰なのだろうか。

これまで取沙汰されてきたのは、日ソ友好議員連盟会長の石田博英氏、日ソ親善協会会長の赤城宗徳氏。学者では中国研究家の中嶋嶺雄氏。社会党にも十数人の協力者がいて、

「党の政策をかなりコントロールすることができた」

が、勝間田清一氏も横山氏も、

「レフチェンコなる人物に会つ

’83年新年特大号予告

ワイド特集

人間の絆 金の絆

十二月二十三日(木)発売 特別定価二百五十円

フの単独記者会見でも取りつけたか、と思つたくらい」

のものがたつたという。

この記事を東京で読んだ東欧のある記者は、あまりに親ソ的な内容に、わざわざこの記者に朝日の連載の意味を問い合せて来たほどだったという。

たこともない」

とかで、同じく同派の石橋正嗣氏は、

「議員会館で会ったことはある」

というものの、一様に、今回の証言劇をCIAをつかったアメリカ政府の意図的演出という見方をする。そして、

「たいした地位もない、一亡命者のたわごと」

として片づけようという気配である。この辺り、朝日の論調と似てくるのだ。

しかし、レフチェンコの証言の信憑性については、下院特別委員会が裏づけを取ったとも報道されていて、先のロシア文学者の木村浩さんによると、

「『一亡命者』とか、『二工作員』といつて軽く見ようという論調があります。それは間違いです。レフチェンコは、ラストボ

ロフ(昭和二十九年亡命。彼の協力者の中には、後で『宏池会』の事務局長に就任した人物もいた大物工作員)に次いで重要な人物ですよ。彼が亡命して後、しばらくは、プロのKGBが狸穴にいなくなった、といわれた程の腕を持つてたらしいですよ」

中国研究家で東京外語大学教授の中嶋嶺雄さんも、もちろんエージェンツ説を言下に否定した。ただし、

「ソ連の学者が意見を聞きに研究室へ随分来ますが、学者であるかエージェンツであるかの見分けは何となくつくんです」

と、「スパイ慣れ」の自信をお持ちのようでもあった。

元防衛大学校校長の猪木正道さんの名前も取沙汰されている。猪木さんがポリヤンスキー大使らと定期的に会っていることから、KGB側にしてみれば、

「わが方の影響下にある人物」もしくは協力者ということになるのだから。

「ポリヤンスキーとは『安全保障問題研究会』のメンバーとして会っているんで、個人としては会ってない。こつちが十人、向うが十人くらいで会食する。ソ連大使館に招待されてロシア料理をごちそうになったり、一方こつちが霞友会館に招いて西洋料理をごちそうしたりする。

白洋舎だけの
画期的な
サニトーン
クリーニング。



白洋舎は、米国から洗淨性のすぐれたサニトーンを導入。いままでになかったきれいさが、得られます。がんこな汚れをきれいに落とし、色物はより明るく、白い物は白さが冴え、ふくらんだ感触を保ち、風合いもそこないません。コート、ダウン、ニット製品などに特に効果的です。あなたの衣服で、その差をぜひ一度お確かめください。

Clean Living
白洋舎

●ご相談コーナー ☎03-460-9011

筋肉の 疲れ・痛みに！

はり心地が
とってもソフト！



- すぐれた効き目
- ソフトなはり心地
- はがすのに痛くない



肩こり・腰痛・神経痛・打撲

トクホン エース

株式会社 鈴木日本堂
東京都中央区日本橋本町4-15

レフチェンコとは会ったこと
ないですよ。私がエーゼント
だなんてケシカラン話だな。も
っとも、レフチェンコの話は多
少割り引いて考えるべきだと
しても大いにありうる話だ。た
だし、報酬が四万とか五十万と
か安いね。数億円というなら話
はわかるが、そんな端金でエー
ゼントになるなんて、誇り高
い日本人として恥ずかしい。情
ないねえ」

ところで、社会党の中に協力
者がいてもそれほど不思議はな
いのだが、飛鳥田委員長など
は、声を荒らげて「CIAの陰謀
だ！」と古色蒼然たる言葉を持
ち出して否定した上、日ソ友好
商社を通して特定のグループに
資金が還流していることもまっ
たく認めようとしなかった。
で、合化労連委員長の立花銀
三さんなんかはこういふ。

「飛鳥田さんは、社会党とKG
Bの関係について全面否定、友
好商社なるものは存在しないと
言い切ってますけどねえ。そう
はつきりいつて大丈夫かね。協
会派の一部グループが、大手商
社のダミーになっている中小商社
に、日ソ交易をやらせてるのは
周知の事実でしょう。以前は太
田薫が栄和通商というのをやっ

軍事機密より情報操作

自民党の国会議員では、先の
石田、赤城の両氏以外に、田中
六助、阿部文男氏の名前もチラ
ホラ出てきている。もっとも、
阿部氏はかねてから、
「彼はまぎれもないエーゼン
ト。彼がそうでなければエーゼ
ントはいなくなる」
といわれてきた。氏の経歴や
北海道輸出入協同組合専務理事

てコニヤックを輸入してたけど
つぶしちゃった。今じゃ他の商
社も向坂の協会派に取られてし
まってますよ。そんないきさつ
からいつて、レフチェンコの名
簿には太田さんとか向坂さんの
名前が挙がってくるでしょう」
要するに、飛鳥田さんはとぼ
けたんではなくて、ナインも知
らないのだということらしい。

という立場上、年に何十回もソ
連と往復することなどからも、
そう見られがちなのだろう。
「レフチェンコなんて、見たこ
とないし聞いたこともない。俺
が、そんなことやってたら責任
とって国会議員やめるよ」
と阿部氏は潔白を強調する。
先の石田、赤城の両先生も、も
ちろん自分が協力者だなんてい

うわけもない。また、そうでは
ないのだろう。しかし、石田博
英氏については、こういう話がある。語るのは某新聞社の元モ
スクワ特派員氏。
「石田議員は私がモスクワにい
る間に三回来ました。うち二回
はブレジネフに会っています。
いわゆる公式訪問以外でブレジ
ネフに会ったのは彼だけのはず
です。当時からエーゼントの
噂なきにしもあらずでした」

この時、石田議員は通例とな
っている日本大使館員の通訳を
つけないでブレジネフと会見。
結局、その時の会見内容はいま
だに当事者以外にわかっていな
いのだという。日本の大使館が
これを大いに不満としたという
のも、当然ではある。
財界にもむろんエーゼント
はいるという。何しろその数二
百人というのだから、思わぬ名

前が挙がってくるかもしれない。
い。ところで、「軍事機密、国
家機密なんて今の日本に存在し
ませんよ」というのは、元国防
会議事務局長の海原治さん。海
原さんをエーゼントに擬してい
るムキもないではないが、そ
れはともかく、海原さんによれ
ば、だから余計に自国に有利に
なるような世論操作、情報操作
が重要になってくるというの
だ。人工衛星は軍隊の移動や配
備をキャッチできても、人の心
はキャッチできないからだ。
そこで、あらためてレフチェ
ンコが証言したソ連の対日情報
工作と狙いを見てみると、まこ
とに時宜を得た正鵠でかつ巧妙
なものだったと実感できる。と
なる「エーゼント二百人」
というレフチェンコ証言の、一
日も早い事実調査と真相究明が
必要とされるのである。